



広島国際学院
創立84年



熱意ある学生、学校に社会に元気届ける

特集 躍動する学生たち	2-3
自然と人にやさしいものづくり 工学部	4
心に響くデザインを求めて 情報デザイン学部	5
社会とつながり、未来を拓く 現代社会学部	6
クルマの明日へ快速直行 短期大学部	7
高校から発信	8-9
第44回 高城祭	10
私の学生生活	11
大学同窓会総会	11
TKJo information創刊	11
伊能図フロア展、大盛況で閉幕	12
今後の主な行事予定	12

広島県初開催、にぎわう伊能図フロア展

広 報

第87号

平成24年1月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>
※大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

躍動する学生たち

被災地の海、再生の力になりたい — 三陸ボランティアダイバーズに参加、海中清掃に従事 —



鬼沢漁港での瓦礫撤去

情報デザイン学科4年 小林 佐和子(安芸南高校出身)

私が岩手に来て3カ月が経ちました。私が参加しているNPO法人団体「三陸ボランティアダイバーズ」は世界中のダイバー達で構成され、主に岩手県を中心に海底瓦礫撤去ボランティアをしています。

3月11日の震災発生からずっと、やりきれない気持ちと何かしたいという気持ちがあり、何かできないかと考え調べていた時、ネットで海中清掃の記事を見つけました。私は水泳部でダイビングのライセンスを所持しているの、自分の特技で力になれるのではないかと思います、また人手が不足しているということでボランティアに参加しようと決めました。海底清掃をするにあたって潜水士の資格も取得しました。

海中の作業は陸上よりリスクが高く、専門的スキルが必要なため瓦礫の撤去が思うように進まない上に、なかなか人数も集まらないので撤去作業がかなり遅れていました。目に見えにくいので忘れられがちですが、実は海の中も入ってみると3月11

日のまです。堤防が跡形もなく壊れ、海には瓦礫の山。ガードレールは曲がり道路もボコボコと、当たり前であってはいけない景色もメディアで流れなくなり、現状をもっと皆に知らせなくてはと思う気持ちでいっぱいです。

被災地から遠く離れた私達も、震災の事を忘れず国民全員で復興について考える必要があると思います。私も広島から来た者として被災地の情報を発信していくことが義務と考え、大学で学んでいることを生かして被災地の現状を伝えるサイトを作り、できるだけ多くの人に見てもらい再度被災地のことを思い出してほしいと願っています。



甫嶺漁港で漁師さんたちと談笑する小林さん(左)

山口国体出場、4位射止めた — 石田さん快挙 —

10月7日に山口県の周防大島町陸上競技場で開催された第66回国民体育大会「おいでませ！山口国体」アーチェリー成年女子個人の部に石田明日香さん(総合工学科2年・広陵高校出身)が出場、見事4位を獲得しました。

大学でもアーチェリー部に所属し、数々の大会で成果を上げている石田さん。当日の気持ちについて「緊張はあまりなく、国体という場で撃てることにワクワクしていました。全国という大きな大会の雰囲気を楽しもうと思いながら試合に臨みました」と話しています。試合前に緊張がほぐれるようなハプニングがあり、さほど緊張を感じなかったとか。「試合途中は団体の順位と得点を速報で見ただけでした。自分の順位や点数を確認することはできませんでしたが、前半で57点という高得点を数回出し、自信を持って撃てました。撃ち終わり初めてわかったのも団体の順位でした。試合が終了した後、コーチから『個人4位おめでとう！』と手を差し伸べられ、初めて自分の順位を知ったのです。賞状をもらい、全国で上位に入賞したのだと実感しました」と喜びを語りました。



国体で4位に輝いた石田さん

地域と学生、大学のつながりに「たかじょう地域新聞」創刊 —CLP—

総合工学科4年 山根 虹子(広島観音高校出身)

私たちCLPは学生生活がより良くなることを目的に活動し、これまで学生談話室設置の企画などをしてきました。しかし活動の中で、学内だけでなく学外(地域)とも関わりを持つことが大切ではないかと考えるようになりました。



「たかじょう地域新聞」を制作するCLPメンバー



「たかじょう地域新聞」創刊号(1ページ)

大学の立場から行われる地域との連携は多いですが、学生の立場からのアプローチはほとんどありません。地域と大学、さらに地域と学生がつながるきっかけになれば良いと思い、『たかじょう地域新聞』を10月に創刊しました。A3用紙二つ折りの4面構成で、年4回の発行を予定しています。

新聞を通して、地域の方に大学の活動のみならず、私たち学生が行っている活動に興味を持ってもらえるようになることが目標です。記事は今のところ大学の大きなイベントが中心ですが、今後は学生の活動もたくさん掲載していきたいと考えています。

お祭り大好き！ステージイベントならお任せ！ —VOD—

本大学にほど近い瀬野川河川敷の「ほことり広場」で8月27日、隔年開催の夏祭り「サマーフェスティバル in ほことり」が行われ、屋台やステージ演奏などでにぎわいました。ステージ運営は本大学の「放送通信研究会」通称「VOD」の音響技術に支えられ、主催者の信頼も絶大。部長(当時)の牛尾優香さん(情報デザイン学科3年・広島桜が丘高校出身)は「主催者、出演者、お客さんみんなが楽しめるステージを作りたいと思います。部員もイベントや祭りが好きなので、行事に携われてすごく楽しいです」とコメント。また「音作り、機材の名前や機能、音取りの方法が多く苦勞することもあります。水は機材の大敵。悪天候の屋外イベントでは濡れないよう気をつけています。『楽しかった』『良いイベントだった』『音が良かった』などと言われるとやりがいを感じるし、励みになります。イベントに参加することで私たちも技術を磨き成長できるので嬉しいです」とも話していました。



サマーフェスティバル会場で音響を担当するVODメンバー

光の祭典に「影」の立役者 —電気主任技術者国家試験受験倶楽部—

同じ「ほことり広場」および中野東駅付近に華を添える年末恒例のイベント「瀬野川イルミネーション」。第5回目となった今回も12月10日から24日まで開催されました。ここでは「主役」のイルミネーション設置に「電気主任技術者国家試験受験倶楽部」が大きく貢献。日頃学んだ知識と技術をいかに発揮し、街に美しい光のオブジェを出現させます。「中野東駅前と河川敷をあわせ、2~3日で設置します。地域の方と協力しますので、意外と時間はかかりません。駅前での飾り付けは木に登って作業する上、デザインのセンスを問われますから二重に大変です」と前部長の池永誠弥さん(情報デザイン学科4年・庄原格致高校出身)。「イルミネーションを見た人が『おー』とか『きれいだねえ』と歓声を上げる時が一番楽しいです。それまでの苦勞の成果は、その瞬間に全て詰まっていると思います」と締めくくりました。



瀬野川イルミネーション

タイ農業体験実習報告

昨年度に引き続き、9月11～16日の5日間、タイ王国のLand Development Department（農林水産省）による農業政策、農法技術開発を中心に施設等の見学をしました。

タイでは急速な工業化、木材の輸出、プランテーションなどの影響で多くの森が失われ、現在は20%程度までに低下したことを受け、王立プロジェクトとして新たな農業政策が実施されています。このプロジェクトには多様な土質に最適な農法を確立し、その技術を農家の方々に指導し広めるといった目的があります。高地では林業と果物、野菜栽培の共存が理想的であり、平地では米を中心とした従来の農業に加え、有機農法と特異な栄養成分を含む高付加価値米の栽培等にも力を入れているということです。

農業試験場ではこういった農法の一例としてバナナとチーク材を同時に植えるといった試験を行い、成果をあげているようです。我々も記念にチーク材の植樹をしました。

最初は慣れない環境に不安そうだった参加者メンバーも後半にはずいぶんと慣れ、英語を使いながらLDDのスタッフの方々と会話していました。近年様々なところで国際化が叫ばれていますが、こういった機会をどんどん活用し、将来大きなフィールドに出て行って欲しいと深く感じました。



チーク材の記念植樹

災害対応、HVバイク開発中！



開発中のHVバイク

現在、様々なエコ車両ならびに多様なエネルギー源を利用できる車両の開発・製作が行われています。バイオ・リサイクル専攻ではこれまで洗米排水、米ぬかやうどんの茹で汁といった廃棄物からのバイオエタノール生産技術の確立を目指し研究を進める一方、バイオエタノールを燃料として利用可能なバイオ燃料車両の製作を行ってきました。本年度からは新たなエコ車両として「HVバイク」の製作をスタートしました。

このバイクは最高速度80km/hに達し、大学構内での試験走行を重ねています。今後は小型の発電機・充電器を搭載した「シリーズ型ハイブリットEV」へと発展する予定です。バイクの完成により様々なエネルギー源を利用することが可能となるほか、家電へのエネルギー供給が可能となるため災害現場での利活用が期待されます。

なお9月29日付中国新聞に「HVバイク 災害活用に光」として紹介されました。

スクールエコ活動を実施 — 広島県環境県民局主催 —

広島県環境県民局主催の上記支援事業の一環で、安芸高田市立吉田小学校4年生児童を対象に低炭素型自動車による環境学習を実施しました。

本大学からはバイオエタノール車両、広島県庁からは水素RE（ロータリーエンジン）車両を小学校グラウンドに持ち込み、地球温暖化と炭酸ガス、水環境の保全、資源の確保について学ぶ機会を提供しました。バイオエタノールは排気ガス中の炭酸ガスを光合成により固定（吸収）、燃焼による放出を繰り返すリサイクル作用（カーボンニュートラル）により、炭酸ガス増加を抑制すること。また水素RE車は水素が燃料であるため、燃やした後の排気ガスは「水蒸気」のみ。そのため排気ガスを石灰水と反応させても白濁しない（炭酸ガスによる白色の炭酸カルシウムの生成が起きない）ことを視覚・体験的に学んでいました。

広島県環境情報サイト (<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/eco/>) で詳細な授業の様様およびスクールエコ活動について紹介しています。



小学生に環境保全や資源問題について指導

情報デザイン学部 ▶ 心に響くデザインを求めて

『第7回“ちいさな”平和コンテスト』開催

毎年恒例となった『第7回“ちいさな”平和コンテスト — 携帯電話で撮るあなたの平和のイメージ』を開催しました。身近な平和をイメージした写真を、7月25日から8月6日まで広島駅地下展示スペースにおいて展覧しました。留学生を含む学生実行委員12名は、作品を印刷用に編集したり、展示用パネルを作成したり、暑い中、展示場の設営をするなどして本企画に協力しました。透明アクリル板やプロジェクターなどを利用したスタイリッシュな展示に、道行く人も足を止め見入っていました。

応募は広島県内はもとより、愛知県、静岡県、群馬県、宮城県、北海道からもあり、全体で約100作品となりました。関係者の投票結果を参考にして、情報デザイン賞、準デザイン賞、佳作、CG-ARTS協会賞の合計10作品を選出しました。入賞作品は<http://heiwa.id.hkg.ac.jp/Nyusho11/>にて公開しています。



エキチカに「ちいさな平和」大集合

情報デザイン特論



㈱モリサワの講演

情報デザインに関連するいろいろな分野の話の聞いたり体験したりする必修科目「情報デザイン特論」。今年もエキスパートの方を招いた講演や、学外での活動に学生達が参加しています。

7月28日は㈱モリサワの井上芽久美氏と伊勢奈央子氏から「文字について：多くの書体から適切な書体を選ぶことの重要性」というテーマで、文字の歴史：活字からデジタルフォント、文字の基礎知識：文字デザインに必要な用語とそれがもたらすデザインの効果、事例紹介：実際のポスターや書籍でどのように使用されているか等、1年生

向けにわかりやすく説明していただきました。

9月11日は扶桑電通㈱の松浦正樹氏と反本岳氏から「仮想化技術について」というタイトルで2年生向けに講演していただきました。マイクロソフトMVPである松浦氏から、仮想化技術とはどのようなもので、どこで使われ、これからどんな場面で役立っていくのか、Windowsでの実例をあげながら丁寧に説明していただきました。



扶桑電通㈱の講演



大原美術館見学

11月12日は2年生のバスツアーを実施。岡山県倉敷市の倉敷美観地区内にある大原美術館の見学を行いました。見学前に学芸員の方から収蔵作品について、種類や年代、どのような視点で創作されているかなどをご説明いただき、学生はそれを参考に美術館の複数の建物を回って自分の気に入った作品を見つけ、レポートを提出しました。

また、学外でのセミナーもいくつか特別回として指定されています。学外の団体のご厚意により、4

月29日、6月18日の日本Androidの会中国支部勉強会、6月11日の中国GTUG勉強会(以上、袋町キャンパス)、10月1日のオープンソースカンファレンス(県立広島大学)などで学生がセミナーに参加しています。なお、オープンソースカンファレンスの正式ポスターには黒口慎也さん(4年・広島国際学院高校出身)のデザインが採用され、授業以外でも学生の活躍の場が広がっています。



黒口さんデザインによるオープンソースカンファレンスポスター

社会とつながり、未来を拓く

現代社会学部



ノンアルコールカクテルバー、高城祭にお目見え

— プレゼミ生が出店、顧客つかむ —



学生バーテンダーが本格的なカクテルを提供

10月22～23日に行われた「高城祭」にて、本学部1年生がノンアルコールのカクテルバーを出店しました。

初日の22日は昨年同様あいにくの雨でしたが、過去になかったカクテルバーということで来場者の多くが興味を示し、売れ行きはまずまずでした。焼きそばやたこ焼きなどと比較して価格は割高な感もしますが、カクテルを作るパフォーマンスとおいしさでお客さんの心をつかんでいました。カクテル作りの中心的役割を果たした佐藤元紀さん(1年・東京都立八丈高校出身)は調理師の免許も持ち、味はもちろん見た目も美しい本格的なノンアルコールカクテルを提供していました。

バーテンダーに扮した学生たちが、おいしいカクテルやオリジナルのカクテルを作るために、直前まで試行錯誤していました。カクテルバーの出店を通して、人と接する楽しさや販売などにおける大変さも経験できたことと思います。今回の経験を生かして、これから各種イベントで大活躍してくれることを期待しています！

高城祭ではその他、実行委員会やサークルの屋台出店などで、あちこちに現社の学生が活躍する姿が見られました。皆さん、お疲れさまでした！

ビジネスインターンシップ報告会

11月16日、1年生のプレゼминаルの授業で、ビジネスインターンシップ報告会が行われました。発表者は3年生の高田喬介さん(広島国際学院高校出身)です。高田さんは8月22日からの5日間、平安祭典広島本部で葬儀



ビジネスインターンシップ報告会

の実習に携わり、実際に寺式・家族葬・神式・社葬と様々な葬儀を体験することができました。高田さんはこの実習を通してビジネスマナーの大切さや体調管理の重要性などを学び、葬儀関係の仕事に対するイメージが大きく変わったことを報告しました。最後に1年生に対し、早めの時期から就職に向けて動いた方が良いとアドバイスしました。

1年生からは、先輩の発表は後で自分たちにふりかかってくるのだし、就職活動を早めにしようと考えさせられる内容だったという感想が寄せられました。実習の大切さを各自が認識できた発表でした。

ボランティア体験報告会

11月16日、「ボランティアとNPOの社会学」受講生によるボランティア体験報告会が実施されました。梅田悠佑さん(1年・広陵高校出身)は、老人保健施設、障害者通所授産施設でのイベント、および特別支援学校に通う生徒のためのサマースクールでボランティアを行いました。将来、社会福祉の現場で働きたいと考えている山田賢吾さん(1年・広島県瀬戸内高校出身)は、社会福祉協議会が主催する「ちょっと福祉体験スクール」に参加し、車椅子の操作、要約筆記の仕方などを学んだ後、高齢者福祉施設などを訪れました。三登誠さん(1年・音戸高校出身)は、平和記念式典出席者のために、広島市が広島市立大学に設置するキャンプサイトの運営を手伝い、海外から広島を訪れた利用者ともコミュニケーションを図りました。ボランティア活動を振り返り、パワーポイントを使い、50名余りの同級生、教員の前で報告することは、ボランティア活動と同様、貴重な経験となりました。



ボランティア体験報告会

第3回 自短夏祭り

実行委員長 楠木 良治



今回初めて開催されたゼロハンカー走行会

8月20日に、第3回「自短夏祭り」が開催されました。当日は曇り空から雨になるあいにくの天気でしたが、地域の子供さんから大人まで約150名が来場。ポン菓子の実演、ヨーヨー釣り、冷やしそうめん&むすびやかき氷などの出店を無料サービスで楽しんでいただきました。

イベント会場では「熊野こども和太鼓クラブ」による迫力のある和太鼓演奏や、「琉風会」の方々による沖縄伝統芸能のエイサーの演舞などが行われました。また、普段JR横川駅の前に展示されているため触ることのできない「かよこバス」の試乗や電気自動車に改造された名車・デロリアンの走行など、自動車短大ならではのイベントも大好評でした。

今回はさらに、陸上競技場に特設コースを設け、学生と社会人の方々を招待してゼロハンカー合同走行会を開催。本短大の「ものづくり」の一環として製作したゼロハンカー（50ccバイクのエンジンを搭載した手作り車両）と愛好家の方々によるゼロハンカーが、砂煙を巻き上げながら激走する模様を来場者の方々に披露しました。来年度は高校生を招待したゼロハンカーの大会を本短大主催で実施する予定です。

平成23年度 研修旅行

学生生活指導委員会 佐々木 博和

今年度の研修旅行は8月30～31日に1泊2日の日程で関西方面を旅しました。

1日目の研修は、岡山県の三菱自動車工業(株)水島製作所を訪問しました。歴史ある工場で、各生産ラインには最新鋭のロボットが導入されており、国内でもトップクラスの生産能力と高品質の車づくりに努めています。ここではプレス、溶接、組立ラインを見学しました。銅板から自動車になるまでの工程がよくわかり、よい勉強になりました。その後、倉敷市内で昼食をとり、一路ユニバーサル・スタジオ・ジャパンへ向かい、閉園までの時間を過ごしました。夏休みということもあってか、夕方にもかかわらずほとんどのアトラクションが40～50分待ちでしたが、学生はそれぞれに楽しんでいる様子でした。

2日目は海遊館、京セラドーム大阪へ行きました。海遊館では、体長4mのジンベイザメなどを観賞し、次の京セラドームでは、普段見ることのできないバックグラウンドへ入り、選手のロッカールーム、ブルペンを見学。選手が使用したバットやボール、マウンドの土を手にとって見ることができました。京橋花月で新喜劇を観ながらよしもと弁当で昼食、2日間のバス旅行の旅程を終了して帰路に着きました。学生の皆さんはこの2日間で互いに交流を深め、学生時代の楽しい思い出の一つとなったことと思います。



三菱自動車工業(株)水島製作所にて

保護者懇談会

10月29日、1年生の保護者を対象にした保護者懇談会を実施しました。

この懇談会は、平成25年3月に卒業予定の学生を対象にしています。会社も早いところでは10月下旬から採用試験が始まり、ピークは2月と3月に集中しますが、求人数が各社とも少なくなっています。厳しい就職状況を反映してか、保護者の方も朝早くから来校され、開始時には参加希望者全員が会場に集まっておられました。

奥田学長の挨拶に続いて知名短大部長による本短大の概要説明があり、谷岡教務委員長からは、単位取得や受講姿勢など授業の現状が報告されました。最後に川口参与から、採用試験への取り組みや採用に有利なポイントなど、保護者と連携して取り組むことについて説明がありました。

引き続き保護者一人一人による個別の懇談に移り、1年生の学生に精通した6名の教員が学生の成績や生活状況など保護者の相談に応じました。進路状況の厳しさもあり、学生の将来を考えた真剣な懇談が行われました。



短大部長の説明に耳を傾ける保護者たち

高校 から発信

イギリス姉妹校(Beckfoot School)の訪問を受けて



ベックフット校生徒たちとの遠足(平和公園)

姉妹校であるイギリスのBeckfoot Schoolの生徒12名、スタッフ2名の計14名が、10月21日から27日まで本高校を訪問しました。3月に本高校生徒が姉妹校を訪れ、現地での交流を深めてきたばかりで、再会に感激する姿も見られました。宮島や平和公園などへの遠足をはじめ、様々な交流を行う中で、生徒達が精一杯の英語を使って理解し合おうとする場面が少しずつ増えていき、短期間ではあったけれども有意義な時間を過ごすことができたと思っています。すべての日程を終え別れの時を迎えると、彼らと過ごした充実感を思い起こし、また寂しさで涙を押さえられない生徒や家族の皆さんの姿を目にして、国際交流のすばらしさを改めて感じました。今回の訪問で再び大きな絆が結べたことは、きっと今後の人生に大きく影響を与え、生かしてくれるものと確信しています。

最後になりましたが、姉妹校訪問にあたり、生徒、スタッフの受け入れにご協力いただいたご家庭の皆様、そして交流授業等にご協力いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

オープンスクール (2日間で2,000名を超える参加者)

毎年2,000名以上の申込みをいただくオープンスクール。参加者にもっとゆっくり見ていただけるよう、今年度は9月23・24日の2日に分けて実施しました。両日も1,000名前後の応募があり、例年通り活気溢れる催しとなりました。

今回も「いかに本高校の雰囲気を味わってもらおうか」をコンセプトの一つに掲げ、数多くのイベントを用意しました。準備、受付、誘導、講座の受講など、様々な役割に分かれた350名以上の生徒が中心となって本高校の日常風景を再現し、参加者に見ていただきました。



高大連携授業(バイオ)の公開講座

公開講座では本高校教員の授業だけでなく、広島国際学院大学の先生方による授業や実験も行われました。他校ではなかなか真似できない「大学の先生による高度な授業」を、高校の段階でカリキュラムの中で受講できることが本高校総合学科の強みの一つとなっています。

来年度も参加者にとって有意義なものになるよう、教職員一同、1年かけて準備していこうと思います。

国際交流 留学生ペトゥニアさん、世界平和弁論大会に出場

11月13日に広島工業大学広島校舎において行われた『第22回世界平和弁論大会』に、ノルウェーからの留学生スバガルド・グロ・ペトゥニアさんが出場しました。この弁論大会では、各国から広島に来ている留学生が平和について感じていること、思っていることを日本語で話します。ペトゥニアさんもこの半年でかなり上達した日本語で、ノルウェーのことやノーベル平和賞についてスピーチしました。周りの留学生と触れ合う機会もあり、貴重な経験をしました。

《ペトゥニアさんの感想》

日本に来てから毎日新しいことを学んでいます。留学生による平和スピーチコンテストに参加しました。その日は他の国々についてたくさんのことを学んで、いろいろな人たちと出会うことができました。

私は毎日、学校に来て友達や先生に会います。そして常に新しいことを学んでいます。私が最初に広島国際学院高等学校に来たときは、ほとんど日本語を話すことができませんでした。しかし半年がたった今は、私はついにすべての人と話すことができるようになったと感じています。すべてのことは理解できるわけではないけど、これからまだまだたくさんを学んで、さらに話をしていきたいです。がんばります！



上達した日本語でスピーチするペトゥニアさん

修学旅行

— 高校3年間で最大のイベント、 国内外4コースで —

10月11～15日に4泊5日の日程で修学旅行を実施しました。行き先は韓国、中国、沖縄、北海道の4コースです。海外コースは今までと異なり、現地で高校訪問を行いました。生徒達にとって、この交流会は他国の文化や民族の違いを知ることで大きな思い出となりました。また沖縄での平和学習は、地上戦の惨さに広島とは異なる戦争の悲しさを感じました。北海道では大自然の中、体験学習・観光・ショッピング・グルメを満喫しました。この5日間に見たこと体験したことは、生徒自身の将来に大いに役立つことでしょう。



北海道



沖縄

韓国 — 陵谷高等学校との交流会 — (熱烈な歓迎に驚きと感動)



陵谷高校にて

旅行2日目、陵谷高等学校を訪問しました。韓国的高校とは初め

での交流会であるため、本高校と陵谷高校とで進め方や内容について何度も打ち合わせを行いました。生徒達も事前に韓国の歴史、風習、文化などを学習し、交流会での注意事項を徹底させました。

陵谷高等学校に到着するや否や校長をはじめ先生方や生徒達の熱烈な歓迎を受けました。アニョハセヨの言葉が飛び交う中、講堂に案内され歓迎式典を迎えました。陵谷高校長の歓迎の言葉、双方の教員紹介、生徒挨拶、記念品の交換などの後、メントリング(生徒同士が1対1となり自己紹介や学校紹介を行なう)や施設見学、授

業参観、昼食会などが行なわれました。

陵谷高校は公立校ですが大きな特徴があり、日本で言う大学の形態で授業が進められています。教科ごとに教室があり、受講する教科に従って生徒が教室を移動していきます。制服はあるもののある程度自由な校風です。3時間という短い時間でしたが、交流会の最後に、生徒が涙を流して別れを惜んでいる姿に目頭が熱くなるのを感じました。言葉は通じなくとも心は通じ合えた、一生忘れられない感動の1日となりました。

今回の交流会を通して訪問する側、迎える側がどうするべきか、どうあるべきか、また広島国際学院高等学校という校名にふさわしい姿を考える良い機会となりました。

中国 ～北京月壇中学校との交流を通じて～

紫禁城に程近い閑静な場所に佇む月壇中学校を、旅行2日目に訪問しました。同校は北京市で唯一日本語学科を開設する公立中学校で、日本語教育と国際交流が教学の特色です。なお中国で「中学(中学校)」という場合、中学校と高校が同じキャンパスにあるのが普通で、月壇中学も同様です。

月壇中学の生徒と校長、副校長、国際交流担当の先生方の大きな拍手に迎えられ、式典会場に案内されました。月壇中学の生徒が司会を務め、日中双方の教員紹介、月壇中学の校長からの歓迎挨拶(日本語を指導する先生が通訳)、生徒代表挨拶、記念品の交換、記念写真撮影などがありました。その後生徒交流会が3つのグループに分かれて行われました。自己紹介、学校紹介、記念品の交換など、時間が経つのを忘れ交流を楽しんでいました。月壇中学では毎日1時間、週5時間の日本語の授業があり、日本語教育に熱心です。ほとんどの生徒が流暢に日本語を話す姿に驚き、どのような授業を行っているのか興味を引かれました。

帰り際、両校の生徒たちは泣いて別れを惜しみ、手を握りあったままなかなか校門の前を離れようとしなかったのが印象的でした。

今回の交流を通し生徒たちは、テレビやインターネットの情報では分からない新しい発見をすることができました。今後もこうした交流を続け、日中友好の輪が広がってほしいと思います。



月壇中学にて

第44回高城祭『去年とおとしは高城祭で雨が降ったけれど、 NO RAIN, NO RAINBOW 今年は何にがなんでも晴れ漢!!!



オレたちは爆発する』を終えて



高城祭実行委員会 委員長 中下 貴博
(総合工学科3年 広島国際学院高校出身)



バザー店はそれぞれに工夫を凝らした軽食を提供



お目当ての景品ゲットなるか? 抽選を待つビンゴ参加者



華やかなコスプレに会場も大盛り上がり

クションに、会場は大きな笑いと拍手に包まれました。

また、2日目の終夜祭では、コスプレ大会で会場も盛り上がり、カラオケ大会で大騒ぎをしている印象が強かったです。ゲストには「SHAKALABBITS」による無料LIVE、エンディングには壮大な花火で、会場は大歓声が沸き起こりました。他のイベントも盛大かつ有意義に無事幕を閉じることができました。

電気主任技術者国家試験受験倶楽部のご協力で設置したイルミネーションが夜のキャンパスに輝き、誰もが足を止め見入っていました。開催する側としても本当に楽しかった大学祭でした。

10月22～23日、広島国際学院大学高城祭実行委員会主催による第44回高城祭が行われました。今回のテーマは、高城祭史上最長の『去年とおとしは高城祭で雨が降ったけれど、NO RAIN, NO RAINBOW 今年は何にがなんでも晴れ漢!!!オレたちは爆発する』です。雨に見舞われた昨年、一昨年を払拭し、今年こそ晴れて欲しいという気持ちを込めました。また、「雨なくして虹は出来ない」との言葉通り、苦難を乗り越えた後の成功は一生の宝となると考え、テーマにも反映しました。

願いは天に通じなかったのか、22日のオープニングからいきなり雨模様。しかしこの日のため準備を重ねてきた学生たちは雨を吹き飛ばす勢いで祭りを盛り上げ、ステージ演奏やバザー店の売り声にも一層熱が入っていました。

1日目の当夜祭では「OKY48」と本大学を2003年に卒業した「下定弘和」のライブがグラウンドを沸かせました。当夜祭の最後にはビンゴ大会が行われました。旅行券や40インチ型テレビ、折りたたみ式自転車等の豪華景品がステージに並び、この日一番の盛り上がり。ビンゴが出るたびに会場はどよめきの渦でした。USJペアチケットを引き当てた女子学生に客席から「誰と行くの～?」と声がかかる一コマも。景品を手にした参加者の様々な喜びの表情が印象に残りました。

今回も一般の参加を中心とした企画にしました。「一撃必殺〇×クイズ!」をはじめ「KARAだふり対決」「青年の主張」「箱の中身はなんだろう?」「B! NGO大会」と称し、〇×クイズ、音楽に合わせ出来る限りヒップを速く振る競技、特設ステージ上から大声暴露大会、箱の中身当て、BINGO大会等。参加者の楽しい演技やリアク



イルミネーションに花火が彩りを添える

技術は身を助ける —自動車整備士にチャレンジ—

自動車工業科1年 戸田 武廣(北海道有朋高校出身)

若い学生に入学の動機をよく聞かれます。私は62才。孫と祖父に近い年齢差に関心があるようです。

再雇用という身分で65才までは働けたのですが、その先の人生設計を考えたとき、再出発するには年齢的にいまが限度であると考えました。国内には現在7千万台の自動車が存在し、この広大な市場に関心があったので、自動車整備士を目指して自動車工業科での資格取得を決意しました。

私は海員学校で1年の教育を経て外国航路の船員となりました。関心のないままに入学した学校でしたが、その後の天職と人生を決めてくれました。海技大学校で海技士の資格を取り、国鉄青函連絡船に三等機関士として入社し、JR西日本宮島フェリー機関長で退職しました。芸は身を助けると言う通り、資格そのもので生計が維持できたと言っても過言ではありません。

人生は紆余曲折でしたが、自動車工業科の学生は自動車関係や多くの業種からエンジニアとして囑望され、将来性は大きいと思います。1年生にはまだピンと来ないかも知れませんが、学業が自信を付けてくれるのです。学生生活は年齢差もあって友達同士のような付き合いとはいきませんが、分からないことを聞けば色々と教えてくれます。実習は座学の証明でもあり、コミュニケーションの場でもあって楽しい授業です。また若い学生の3倍は勉強しなくては付いて行けない現状もありますが、先生たちは学生に厳しいなかにも2年間で整備士になれるようカリキュラムを工夫して教えてくれて、希望と気力があれば目標は達成できると考えています。卒業して何年か後には、誇らしい大学であったと思えることと確信しています。



実習中の戸田さん

広島国際学院大学同窓会総会を開催



同窓会総会

秋晴れの11月12日、広島駅に近いホテルセンチュリー21広島において、広島国際学院大学同窓会の平成23年度総会が開催されました。

総会の部では平成22年度活動報告と決算の承認、平成23年度の事業計画と予算が承認されました。特に今年度の事業では、同窓会の活性化のために地域、職場支部づくりと幹事の増員に重点をおくことを確認しました。

引き続き行われた懇親会には鶴理事長をはじめ、奥田学長、西本名誉学院長など多くの学院関係者が列席。オカリナの演奏、太鼓演舞、ハワイアン演奏のアトラクションを鑑賞し、同窓生の懇親を深めました。

最後はビンゴゲームで大いに盛り上がり、再会を約束して終了しました。

学生向け新聞「TKJo information」を創刊

職員有志が毎週発行、コミュニケーションの一助に

10月3日、晴天のもと、職員有志発行の「TKJo information」が初めて配布されました。

この新聞は、教学や学生生活関連の情報をまとめたもので、毎週1回、学生に手渡しで配布するものです。発行者は、「学生とのコミュニケーションツールになれば」と思い、この活動を始めました。学生に直接手渡すことで職員をより身近に感じてもらえれば…。また、職員も学生の気持ちを理解することで、より良いサービスを提供できると思います。学生の興味や意欲を引き出し、発行を心待ちにしてもらえるような紙面にしていきたいですね」と語りました。

創刊から2ヶ月余り経過した現在、嬉しいことに「それ、ください!」と積極的に受け取ってくれる学生も出てきました。



「TKJo information」配布の様

伊能図フロア展、大盛況で閉幕

— 壮大・華麗な日本全図 歴史ファンを魅了 —

11月4日から6日まで、本大学体育館をメイン会場に「完全復元 伊能図全国巡回フロア展 in 広島国際学院大学」を開催しました。

伊能忠敬が江戸時代に製作した日本地図の原画が原寸大で展示されるだけでなく、その上を自分の足で歩けるといふ画期的な催しです。しかも広島県では初めての開催とあって、連日大勢の見学者が詰めかけました。

初日の4日、メイン会場である体育館前でオープニングセレモニーが行われました。奥田勉学長の挨拶に続き、広島市安芸区長の皆本也寸志氏、フロア展中央実行委員会名誉副会長の渡辺一郎氏が祝辞を述べられました。その後テープカットを行い、フロア展開催を祝いました。



伊能図フロア展はテープカットで幕開け

午前10時の開場を待ちわびた多数の見学者が続々と訪れ、館内はたちまち活況を呈しました。海岸線や山並み、街道などが色鮮やかに美しく描き込まれた精緻な伊能図が体育館いっぱいに広がる様はまさに圧巻です。巨大な

日本地図の上をそぞろ歩くうちに故郷や思い出の地を探し当て、歓声を上げながら指さしカメラに収めるなど、見学者は思い思いに堪能していました。とりわけ今回の開催地である広島周辺には常に人だかりができ、見学者の関心を集めていました。



フロア展会場に連日多数の見学者が訪れた

フロア展では、伊能忠敬が当時の測量に使った機材のレプリカ展示、映画やビデオの上映も行われました。また、5日および6日に行われた渡辺一郎氏による講演にも大勢の聴講者が集まりました。伊能らの数次にわたる測量の行程や伊能図復元までのいきさつなど、興味深い内容が歴史ファンの心を捉えていました。さらに本大学独自のイベントとして、現代のハイテク測量機器を体験できるコーナー

や、関係図書展示、大学院が研究している超高純度金属の精製設備や情報デザイン学部のゲーム室、iMac体験、自動車短期大学部によるゼロハンカー等の展示コーナーも用意。見学者の方々に本大学を知って楽しんでいただけるよう工夫を凝らしました。5日は10号館にお茶席を設け、茶道部員が来場者をお茶とお菓子でもてなしました。広いキャンパス内を移動する見学者にはしばしの休息となり、にぎわっていました。

最終日までの3日間で、来場者数は延べ3,549人に上りました。悪天候にもかかわらずわざわざご来場いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。



渡辺氏による講演

★ 今後の主な
行事予定

(赤字は公開行事です)

大学・短大 推薦入試(短1/14) 一般入試(大 前期2/2~3 後期3/12 短 前期2/2 後期3/15)
学内合同企業セミナー(大 2/15~16) 卒業論文発表会(現 2/18: 袋町キャンパス)
卒業研究・卒業制作選抜展(情デ 2/24~26: 広島市まちづくり市民交流プラザ)
卒業証書授与式(3/19) 入学宣誓式(4/5)
高 校 献血(1/24) 推薦入試(2/3) マラソン大会(2/11) 一般入試(2/16~17)
卒業式(3/1) 入学式(4/8)

86号訂正: 7ページ 「女子部同窓会総会」 写真キャプション「再開」→「再会」

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536